

# 小学校外国語科における チームティーチング及び校内研修モデル案の提案

学籍番号 209310

氏名 定島昇汰

主指導教員 箱崎 雄子

## 1. 研究の背景

小学校中学年の外国語活動導入及び高学年の教科化に対応するためには、教員の養成・採用・研修及び外部人材の活用支援等により、専門性を一層重視した指導体制を構築することが求められる（中央教育審議会答申 2018）。外国語科の指導では、様々な教員や地域人材との連携を通じて、積極的にチームティーチングの体制を整え、指導の専門性を強化することが求められている。また、小学校外国語（英語）の教科化に伴い、学校現場では英語教育に対して不安や焦りを感じる教員が少なくないことが想定される。

よって、英語教育に対して苦手意識を持つ教員の学びの機会を保障するためには、研修の在り方について検討することが必要であると考えた。そこで、現在の外国語科において主流であり、実習校で幾度も観察することのできたチームティーチングの在り方や、各教員の役割について焦点を置き、学校内で教員らの外国語科指導の質を向上させる研修を考案した。

## 2. チームティーチングの利点

チームティーチングとは、文字通り複数の指導者が組んで指導に当たることである。その意義は、まず複数の指導者がいることで、単独では気付くことのできない面を補助し合うこと、個別の支援や役割の分担などが可能である。また、外国語指導における利点は、会話モデルをスムーズに提示することができるため、口頭で説明するよりもコミュニケーション活動を容易に児童が理解できる。また、それぞれの教員が各自の特性を活かし、児童のコミュニケーション体験や、英語に触れる機会をたくさん与えることができる。

## 3. 先行研究

長田（2014）の研究では、小学校教員がALTに期待する役割、実際の授業でALTが果たしている役割について、チームティーチングを実際に行っている公立小学校の授業分析、また授業案と授業前後での話し合いを基に調査を実施した。その結果、言語面において母語話者という特性を持っているALTの意見を尊重するほか、児童の反応についての話もするなど、クラスルームマネジメントの面でもALTは活躍を期待されていると分かった。

町田・内田（2015）の研究では、教師の外国語不安の軽減を目指した教員研修の開発を行っている。この研究では、5日間の集中研修を行い、教師の外国語不安の解消を目指し、

教員の教室内での英語使用量が増えることを目指した。

田邊(2008)は、学級担任がチームティーチングのパートナーに求める要素の違いについて調査を行い、学級担任はともに指導を行うALT、日本人指導助手に対して、英語力を求める声が多くみられると結論付けた。本研究から、学級担任の英語力や音声面に関する不安を拭うことのできる支援を必要としていることが考えられる。

#### 4. 先行研究と実習校の課題

立ち位置を含めた、チームティーチングそのものについて小学校教員とALTの両者が共に学び、共通理解を得る必要がある可能性を示唆している。チームティーチングの在り方についても共通の理解を図る必要があることから、ALT、HRTが共に受けられるチームティーチングの指導法を学ぶ研修が必要であると考えられる。

町田・内田(2015)の研究では、外国語不安の軽減を1つの課題として挙げている。外国語に対する教員の不安は、小学校の学校現場でよく耳にする大きな課題である。この研究では、5日間の研修を行い、不安度の解消を実現している。しかし、短期的な研修であるため、その場での不安は軽減されるが、それは一時的な解消となり、今後指導を続ける中でまた不安を抱えることが考えられる。短期的な研修では、恒久的な外国語に対する不安度の解消、また、指導技術の定着には課題が残ると考えられる。

田邊(2008)の研究による調査結果からは、外国語不安のうち、特に音声面に関する不安が生じていることが考えられる。ALTに対する支援として、音声面の補助を多く必要としていることから、自身の英語力による音声の指導に対して苦手意識を持つ教員がいることが考えられる。

#### 5. 考察と校内研修モデル案

今回の実践研究から、学校現場の教員が外国語指導に対する不安を抱えているということが分かった。特に、英語による表現や音声について学習する必要性を感じていた。教員たちが英語の知識を身に付け、外国語によるコミュニケーションを経験することで、英語を活用しながら学び、その楽しさを体験することで、英語での不安を解消し、児童たちに前向きな姿勢で外国語科の授業を進めることが可能になると考えられる。

次に、それぞれの教員が各自の特性や役割について理解を深める必要があると考えられる。チームティーチングにおいては、自身の特徴を理解し、それを十分に活かすことのできる役割を果たすことに加え、指導のパートナーの声をよく聞いて、教員間でどのような指導を分担、連携していくかは柔軟に考えていかなければならない。

最後に、教員がチームティーチングの具体的な指導法や実践例について学ぶことが必要である。専門的な観点からチームティーチングの指導についての知識・技能を身に付けることで、指導に不安を抱える教員の一助となり、指導技術や連携の強化にも繋がるということが期待されると考える。

以上のことから小学校外国語の指導を進めるにあたって、実習校で教員に育成すべき力は、「外国語不安の軽減」、「教員の特性や役割」、「チームティーチングの指導実践」であると考え、この3つのポイントを意識した校内研修のモデル案を作成した。